大阪市教

2024年7月4日
VOL. 615

発行　大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700　FAX 6910-7990

危険な夢洲に行かせないで

万博遠足　学校、PTAに申し入れ

「万博建設費など最大76億円追加…簡易型パビリオン『タイプX』のうち6棟は協会負担に」（読売6月27日）。

朝日6月24日付は「万博300日前見当たらぬ『華』」とし、「持続可能な社会が追求される中、環境のことを考えれば（万博は）やらないに越したことはない」（飯田豊立命館大教授）との指摘を書きました。

TBS報道特集は6月29日「万博協会が発表したメタンガス対策とは　『無料招待』でも現役教師から上がる不安の声」を特集しました。藤永のぶよさんは、「人が立ち入ったらあかんところを会場にしている、悲劇」と指摘。現職教員は、「爆発事故、会場の安全が一番不安。安心して行って勉強になった楽しかった、わくわくした体験で『いのち輝く』に繋がる。今のままでは輝かない」と話しました。山本キャスターは「校外学習は綿密に下見を行うけれどいつ行えるか分からない。どのパビリオンを観るかもわからない。しかもメタンガスの爆発事故が起きている。先生はとても困惑している」と締めくくりました。

「大阪市教」4月2日付は「万博への学校単位での招待事業」の問題点を指摘。新婦人、地域労連、大阪市をよくする会区連絡会などが「危険な夢洲に行かせないで」と「子どもの安全確保、参加の慎重な判断」を求め学校、PTAへ申し入れました。「よくする会ニュース」で、北区、西淀川区、東住吉区、住吉区、中央区、城東区、生野区、此花区（写真は6月1日のパレード）の取り組みが報告されました。

令和・自由・育鵬・日本教科書

戦争賛美、改憲推進許すな

来年度から使用の中学校教科書採択に向け、子どもと教科書大阪ネット21は6月8日、集会「中学校教科書、何が問題か～道徳と社会科を中心に～」を開きました。

平井美津子事務局長は、歴史・公民の「令和も、自由社も、育鵬社も、日本教科書も、『戦争を賛美し、改憲を推し進めるような教科書は、一冊たりとも子どもに手渡さない』ためのとりくみに全力をあげましょう！」と呼びかけました（令和書籍は歴史、日本教科書は道徳）。

共通する問題点は、①学問成果が反映されず、記述は難解、②ジェンダーの視点無し、③民衆や他民族の視点が欠落、支配者から見た歴史、④戦争を美化し、戦争による自国の被害は大きく書くのに、加害の事実は書かない、⑤大日本帝国憲法や教育勅語を礼賛し、改憲をめざす、と指摘しました。

展示会では、「難しすぎる」「二次元コードが多すぎる」「自然科学・社会科学に立脚していない」「人権、民主主義、個人の尊重がない」「多様性が不十分」などの意見を書くことも呼びかけられました。

教科書大阪市民の会は4月19日、育鵬社採択の前々回の不正常な採択が、前回一定修正されたことを踏まえ申し入れを行いました。市教委は専門調査会、学校調査会を設置、閲覧時間も十分確保、保護者、市民の関心に応える教科書展示会を開催、と答えています。

たんぽぽだより　7月

今年も大変暑くなるそうです。負けずお互い頑張りましょう!!

大阪市教が掲げている「なかまがいるよ」という言葉を覚えているでしょうか。今年度改めてこの「なかまがいるよ」を大事にしようと思いました。習熟度少人数指導担当と専科で空き時間があるからといろいろな業務を頼まれました。日々することが多く、頼みたい気持ちもわかりますが、私も仕事があります。そんな状態が続き精神的にしんどくなってしまいました。

同僚に相談したり、大阪市教の執行部の方々に相談したりしました。相談をすると、自然と落ち着き、気持ちが楽になりました。そして、「頑張ろう」という気持ちになりました。一人で抱え込まず、誰かに相談することも大切だと改めて思いました。

今悩みがある人はぜひ、一人で悩まず仲間を頼って相談してみてはいかがでしょうか。

ガーベラだより

選考1月前倒し　現職講師の負担軽減を

「2025年度採用・大阪市教員採用選考テスト」の1次面接試験が実施されました。昨年度よりも約1カ月早い日程（6月8日、9日、22日）で、現職の講師や会計年度任用職員は勤務があり、非常に負担の大きい面接試験となりました。

実際に試験を受けた現職講師からは次のような感想が寄せられました。

「教員採用試験の日程が早まったのは大変でした。今年は担任ではなかったためある程度の準備ができましたが、それでも日々の勤務の忙しさから、準備がギリギリでした。もし担任だったら間に合わなかったと思います」「6月の忙しい時期の面接試験はやっぱりしんどいです」。

臨時教職員部では、現職講師の教員採用試験の負担軽減のために「現職講師の受験者の採用選考テストの試験日については、学期中もしくは学期末の繁忙期を避けて、夏季休業中（7月21日～8月24日）の平日も含めた期間に実施すること」を引き続き要求していきます。

市民の共同で公共を取り戻す

「公共を国民・住民の手に取り戻す」シンポジウムが6月16日に開かれオンラインを含め50人が参加しました。主催は大阪公務共闘。

定員合理化計画と定員管理政策で89万人（1984年）から30万人に減少した国家公務員。増加する行政ニーズは非常勤で対応（国公労連）。

大教組は教職員の長時間労働の実態を報告。中央教育審議会の「まとめ」は「定額働かせ放題」そのまま、教職員の大幅増員を否定、せんせいのチームワークにひび（「新しい職」処遇）。

障害者支援センターを指定管理者制度に移行。公的責任が後退（福保労）。

能登半島地震で見えた「命の水」。「広域化」は「民営化」の一里塚。病院つぶしで命は守れない（自治労連）。

乗客から運賃が取れるのは許可を得たタクシーだけ。ライドシェアは違法な白タク（自家用白ナンバーで類似行為）で犯罪（自交総連）。

コーディネーターの中山徹・奈良女子大学名誉教授は、「公共」がやせ細り、市民から遠くなり、人材が不足し、外部委託により継続性に問題が起こり、コスト削減・人件費が市民に跳ね返り、規制緩和・競争による弊害を指摘。

公共再生のカギは地域にあり、高齢者・若者、公務員・住民が分断されてきたが市民の共同が重要。お互いに思いやり、豊かなくらし、人間性の回復が具体的な公共の中身であることを強調しました。

西淀川、阿倍野

教育・子育て懇談会

「西淀川子育てネット　緊急学習交流会　遠足で子どもを万博に連れて行って大丈夫？」が6月1日行われ19人が参加しました。

関西万博への「学校単位での招待事業」の問題について、大阪市教・三木書記次長が報告。

「爆発事故が起こった場所は、子どもたちが昼食をとる休憩所の近く」「大阪市内の小中学校が乗車する大阪メトロ・中央線は乗客で満員」「バス降車場から西ゲートまでは800～1000m。その間、屋根もなく夏場は炎天下を移動することになる」「下見の日程も決まっていない」などの問題点を解説しました。会場からは「爆発事故は多くの市民や教職員にも知らされていない」「夢洲の埋め立てには東日本大震災のガレキも含まれている。放射性物質やPCBなどの有害物質も心配」などの意見が出されました。

阿倍野新婦人「子どもと教育について考える懇談会　今、教育は？　Part Ⅲ」が6月15日行われ12人が参加しました。大阪市で働く小学校と中学校の教員が報告。学校現場での子ども達の様子や、万博参加についての現場で出ている意見などを紹介しました。

会場からは、「不登校の子どもたちへの対応はどうしているのか」「オンライン授業やICT教育の現状はどうなっているのか」など様々な質問が出されました。また、「万博問題」について交流する中で、「阿倍野区内の小中学校にも訪問をして区民や保護者の声を伝えたい」という意見も出されました。